

「賀川豊彦のお宝発見」その3

新聞記事にみる賀川豊彦 (23)

1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第23回 「深田種嗣」「労働中学」他

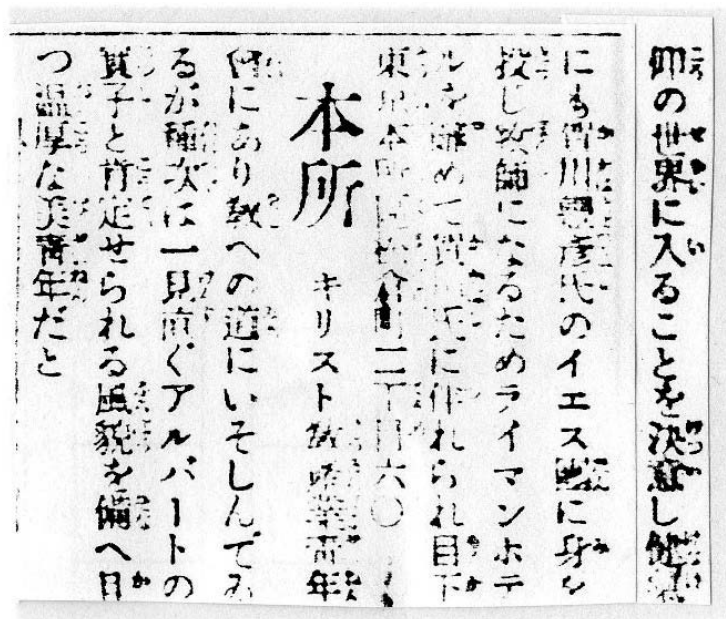
「深田種嗣」

1924 (大正13) 年1月21日「神戸新聞」

既報二十年間生別れとなつた異國の父親を慕うて色々苦心し漸く漢堡に居住する獨逸人アルバート・シモンが種ぬる實父と知り手紙で父子の行乗りを求めたが冷酷にも返すてないと別れ付けられた憐れな混血兒深田種次(三)

豫て 神戸市裏町四一ライマンホテルのボーイを働いてゐたが此の漢堡領事館からの通知に立ちアルバートからも親子でない事と否定した素氣ない手紙に接したので非常に落膽したが遂に一念發起此の極度の哀愁から免れるため信

父に棄れられた  
**混血兒**  
 賀川さんを慕うて  
**信仰の道へ**  
 イエスに身を投じて  
 牧師になる決心



父に棄てられた混血児

賀川さんを慕うて信仰の道へ

イエス団に身を投じて牧師になる決心

- 既報＝二十年前生別れとなった異国の父親を慕うて色々苦心し漸く
- 漢堡に居住する独逸人アルバート・シモンが尋める実父と判り手紙で父子の名乗りを求めたが冷酷にも親子でないと勿ね付けられた憐れな混血児深田種次（二四）は
- 豫て神戸市裏町四一ライマンホテルのボーイを働いていたが此の漢堡領事館からの通知に先立ちアルバートからも親子でないと否定した素気ない手紙に接したので非常に
- 落膽したが遂に一念発起此の極度の哀愁から免れるため信仰の世界に入ることを決意し健気にも賀川豊彦氏のイエス団に身を投じ牧師になるためライマンホテルを辞めて賀川氏に伴れられ目下東京本所区松倉町二丁目六〇
- 本所キリスト教産業青年會にあり教への道にいそしんでいるが種次は一見直ぐアルバートの實子と肯定せられる風貌を備へ且つ温厚な美青年だと。

「日本農民組合」

1924 (大正13) 年2月14日「神戸新聞」

日本農民組合では二年振りに来る二十九日から三月一日まで二日間大阪天王寺公会堂で全国大会を開会する

**議題** は普選を認め国際労働会議を承認し更に日本労働総同盟と提携して無産階級解放運動に猛進する事等で従来の消極方針を捨て積極的に進む旨の大方針を宣明すべく宣言演説が大会の名によつてなせられる

**模様** にて各新聞文部は本

月中旬頃から大阪で開き東京大会は来る廿八日東京で開會即夜開演夜は下阪する筈である

同組組合と労働同盟との結合は筑川豊彦、鈴木文治両氏を盟主としてゐるの一連に

**實現** する下であらう

戸の日本漁民組合も同組と提携の陣線が進んだから近く實現運動に入るべく茲に宣言演説三つの無産階級が大同團結を遂ぐるのも違ひ終極ではあるまいと

消極的方針を捨て、

# 積極の一路を

急進すべく臍を固めて農民組合

二十九日から大阪で大会を開いて其方針を宣明

消極的方針を捨て、

## 積極の一路を

急進すべく臍を固めて農民組

二十九日から大阪で大会を開いて其方針を宣明

- 日本農民組合では二年振りに来る二十九日から三月一日まで二日間大阪天王寺公会堂で全国大会を開会する
- 議題は普選を認め国際労働会議を承認し更に日本労働総同盟と提携して無産階級解放運動に猛進する事等で従来の消極方針を捨て積極的に進む旨の大方針を宣明すべ

く宣言決議が大会の名によって発せられる

- 模様にて各府県支部は本月中旬頃から夫々大会を開き関東大会は来る二十八日東京で開会即夜関東組代表委員は下阪する筈である尚同組合と労働総同盟との結合は賀川豊彦、鈴木文治氏を盟主としているので速<sup>すみやか</sup>に
- 実現する事であろう尚神戸の日本海員組合も総同盟と提携の機運が進んだから近く実現運動に入るべく茲に海労農三つの無産階級が大同団結を遂ぐるのも遠ひ将来ではあるまいと。

賀川豊彦氏が校長で

# 労働中學を開

書勤く者の爲年に區別なく  
月謝五十錢で先生は無報酬

四月から東京浅草で

昨年来勃興した無産階級教育運動は、災後益々その必要が認められ、徳島縣の大阪と東京との

## 労働

學校以外に中央労働

學院、有馬伯の親愛夜學校等諸所に開かれてゐるが、今度更に賀川豊彦氏によつて、東京浅草地方に労働中學校が設立される事になった。賀川氏は前年十月以來、本報に

に産業青年會を開いて託兒所、授産所、無給診察所等を開き、災後の貧民救済に努めてゐるが、更に本年一月以來

## 産業

青年會内に夜學校を

開いて労働者子弟教育に努力した。今度の労働中學校は、が勤勞者となつたもの、その数は、前年賀川氏が無償で百坪を賃借し、建築材料は、

ら提供される事になつてゐる校長賀川豊彦氏、主席宮原武雄の外講師は大竹芝匠、事務長、中學校勸学院の小林舞次氏、新人會大矢幹事、其他新進の人達が無報酬で教授する學費は普通

## 中學

と組織は大體同じで

只夜間教授の上月謝は五十錢、年輪に差別はなく、来る四月開校の豫定で先づ百名餘を收容する、尙計建物は書間は授産場として職業指導をし、セツトルメントハウスともして使用される筈である、尙從來の親愛夜學校も之と合併されるべく百坪の敷地内には、現業者が賃借され、産業青年會は引續いて維持されてゆくさうである

賀川豊彦氏が校長で

## 労働中学を開

昼働く者の為年に区別なく

月謝五十銭で先生は無報酬

四月から東京浅草で

- 昨年来勃興した無産階級教育運動は、災後益々その必要が認められ総同盟経営の大阪と東京との
- 労働学校以外に中央労働学院、有馬伯の親愛夜学校等諸所に開かれているが今度更に賀川豊彦氏によって浅草区地方??に労働中学が設立される事になった、賀川氏は昨年十月以来本所松倉町に産業青年会を開いて託児所、授産所、無料診療所等を開き災後の貧民救済に努めていたが、更に本年一月以来
- 産業青年会内に英学院を開いて労働者子弟教育に尽力した今度の労働中学は之が動機となったもので敷地は有馬頼寧伯が無償で百坪を提供し、建築材料は市から提供される事になっている校長賀川豊彦氏主事宮原武雄の外講師は大竹芝税務署長、中学労働学院の小林輝次氏、新人会大矢幹事其他新進の人達が無報酬で教授する学生は普通
- 中学と組織は大体同じで只夜間教授の上月謝は五十銭、年齢に差別はなく、来る四月開校の予定で先づ百名余を収容する、尚此建物は昼間は授産場として就業補導をしセツルメントハウスともして使用される筈である、尚従来の親愛夜学も之と合併されるべく百坪の敷地内には親愛寮が経営されてゆくさうである。

<付録>

深田種嗣の写る写真一枚。

(2011年4月1日記す。鳥飼慶陽)



左より、鈴木五郎、賀川豊彦、柳川久子、後藤安太郎、深田種嗣、石田友治、  
木立義道、菊池千歳、宮原武夫、吉本健子、渡辺照子

(「火の柱」146号)